プラン2010

飲料用紙パックリサイクル行動計画 −回収率50%に向けて− 「プラン2010」を策定しました。

容環協では、2010年度を目標年度とする行動計画「プラン2010」を策定しました。これは飲料用紙容器にかかる環境負荷削減に向け、これまで実施してきた環境保全やリサイクル活動を、より強化した行動計画を定めたものです。

飲料用紙パック（以下紙パック）は、今や生活になくてはならない存在。実に年間100億個近くが牛乳やジュース、コーヒーなどの容器として使われています。環境面から見ても、適切に管理された森林からのバイオマス資源を、素材とエネルギーの両方に使用しており、製造工程でも環境負荷が小さい容器です。また紙パックのパルプは良質な資源で、リサイクルすることで、環境負荷をさらに削減することができます。

そこで以下の3つを行動計画の目的として明文化し、「プラン2010の行動計画」の指針としました。

①紙パックの回収率を高める

回収率50%以上に高めることで、環境負荷をさらに削減します。

②紙パックの環境特性を正しく伝える

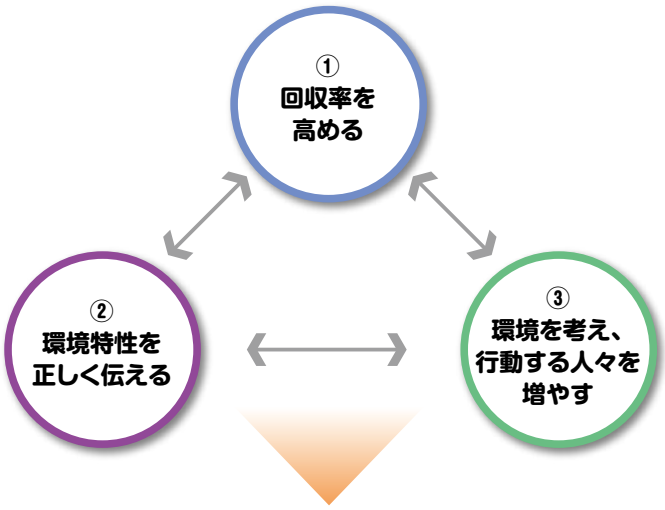
紙パックの回収率向上活動とあわせて
バイオマス資源を利用している紙パックの環境特性を社会に正しく伝えます。

③環境を考え、行動する人々を増やす

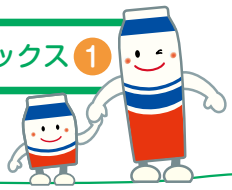
紙パックの回収率向上活動を通して
資源や環境を考え、行動する人々を増やします。

「プラン2010」の詳しい内容はホームページでご覧になれます。

プラン2010の行動計画の目的



環境負荷が少ない社会、
一人ひとりが環境を考え行動する社会



「プラン2010」の
具体的な行動計画を
ご紹介します。

Ⅰ　家庭系紙パックの回収率向上

●地域の回収力向上

地域特性に応じた地域会議・リサイクル講習会の開催や情報提供を実施します。

●回収のきっかけづくり

市町村の分別回収・拠点回収などを促進するとともに、牛乳パック回収ボックスの提供を継続します。

●牛乳1,000ml以外の回収促進

500mlパックが回収できることを啓発し、小型容器についても適切なリサイクルを推進します。

●再生品の利用促進

紙パックの再生品の利用を広く呼びかけるとともに、牛乳パック再利用マークの普及拡大を目指します。

●総合的かつ広範な啓発活動

容環協で実施してきた活動を、より充実させていきます。

Ⅱ　教育や学習の場における活動の促進

●教育・学習とリサイクルの協調

「出前授業」の支援など、紙パックリサイクルを通した環境学習を推進するとともに、学校を核とした地域コミュニティの回収率を高めます。

●学校給食用紙パックの回収率向上

効率的な学乳パックリサイクルの情報を提供します。

Ⅲ　店舗などで使用される紙パックの回収促進

事業系の紙パックの使用実態を継続調査し、モデル事例の発掘・紹介を通して、回収ルートの整備に努めます。

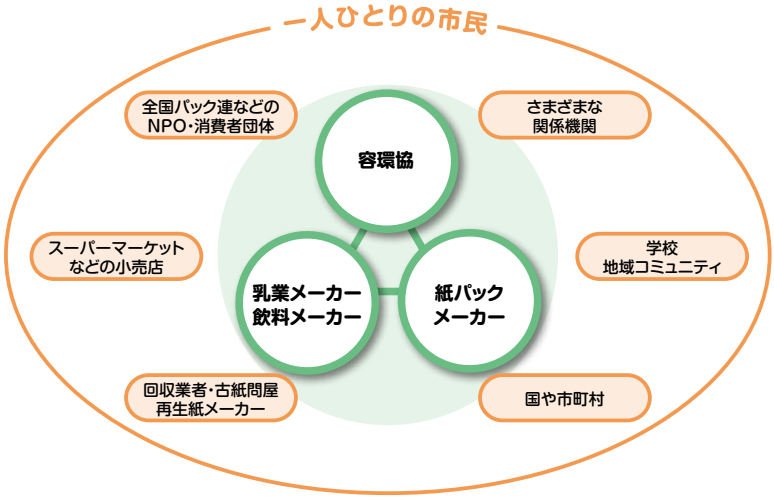
Ⅳ　よりよいコミュニケーションに向けた情報の整備

回収ルートが把握されていない紙パックの実態調査など、より精度の高いデータを収集・分析します。

ネットワークの拡充

「プラン2010」は容環協が一つの核となって計画の実現を目指しますが、さまざまな組織や人の関与なしには、目標達成に向かうことはできません。紙パックリサイクルに関わるネットワークを拡充することで、この活動を社会に広げていきます。

計画の達成に向けた
柔軟で強力なネットワーク



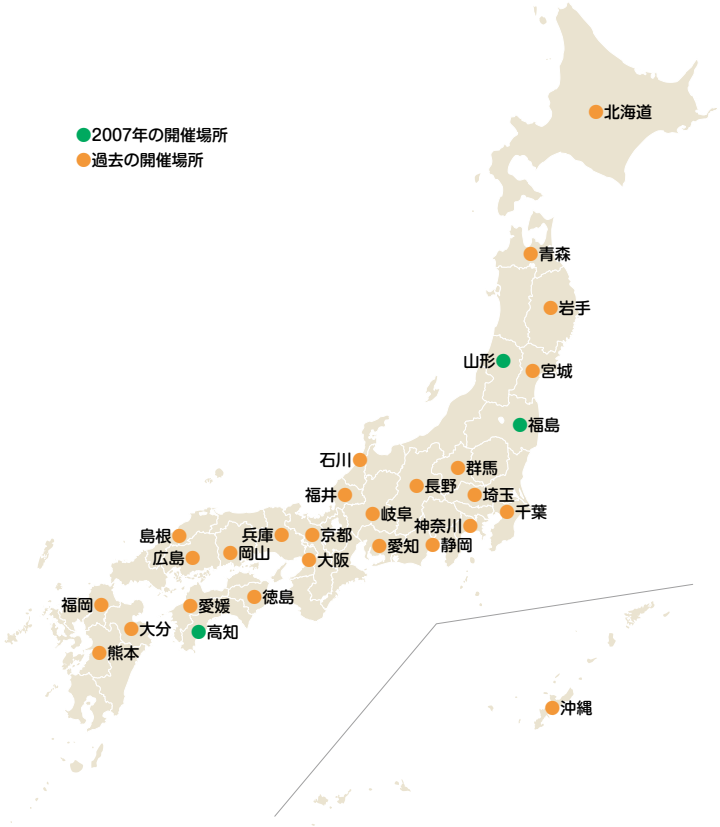
牛乳パックリサイクル促進地域会議

地域ごとの事例を紹介し、現状の把握と課題を抽出。

容環協と全国パック連の共催により、全国各地で開催している「牛乳パックリサイクル促進地域会議」。2007年も高知、山形、福島の3ヵ所で開催しました。この会議は、牛乳パックのリサイクルにおいて、地域ごとの現状把握と課題を抽出し、リサイクル拡大の糸口を探します。

各会議とも自治体、関連メーカー、古紙回収業者、スーパー、市民団体など、多彩なメンバーの参加を得て、さまざまな事例が紹介されました。関係者が相互に理解を含め、よりいっそうリサイクルを促進していく方法を探し出しています。

地域会議の開催場所



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 高知／高知市

◆ **開 催 日** 2007年2月15日
◆ **参 加 者** 自治体、学校・学校給食等関係団体、乳業メーカー、古紙事業者、消費者グループなど計41名

【主な報告や問題提起】

- 高知市では早い時期から分別回収を行っており、現在13の分別回収が実施されていますが、紙パックについては分別回収の実施に向けて検討段階です。
- 地元スーパーでは、1991年から店頭で牛乳パックやアルミ缶、トレイを回収。牛乳パックは他の容器に比べ、きれいに洗浄されており、リサイクル意識の高さがうかがえるそうです。
- 一方、分別収集計画を作成している県からは、2006年度の紙パック回収量を県全体で122トンと予測していたにもかかわらず、12月集計で20トンのみ、といった報告がありました。また県内の学乳も7割が紙パックですが、リサイクルしている学校はわずか2校とのこと。
- 高知県牛乳協会からも、「一部の活動を除き、牛乳パックリサイクルの意義が理解されていないのが、高知県の現状。これからもっと意識改革を進めていかなければならない」との意見がありました。

高知市での意見交換

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 山形／山形市

◆ **開 催 日** 2007年6月27日
◆ **参 加 者** 自治体、学校・学校給食等関係団体、乳業メーカー、古紙事業者、消費者グループなど計36名

【主な報告や問題提起】

●1人あたりのゴミ排出量が少ないことで知られる山形県。これは資源の分別収集をきめ細かく行っており、リサイクル精神が徹底されていることが大きな要因、とのことでした。

●紙パックの分別回収を実施しているのは、県内35市町村のうち15市町村で、収集量の目標達成率は60数%。消費者連合会でも、20数年前から牛乳パックリサイクルに取り組んでいるそうです。

●山形市では2年前から全小中学校で学乳パックのリサイクルを実施。子どもたちの環境意識が高まると同時に、牛乳の飲み残しも減るなど、多様な効果を生んでいる、との報告がありました。

●地域会議では初めて、「手すきはがき体験コーナー」を設置し、参加者も楽しくはがきづくりを体験しました。

参加者による手すきはがき体験

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 福島／郡山市

◆ **開 催 日** 2007年11月6日
◆ **参 加 者** 自治体、乳業メーカー、牛乳協会、古紙事業者、流通事業者、市民団体など計35名

【主な報告や問題提起】

●福島県では、循環型社会形成推進計画の一環として「もったいない50の実践」を進めています。県内市町村の紙パック分別回収量も、2006年度は421トン（前年度比118トン増）と大幅増となるなど、環境意識は年々高まっています。

●ゴミ回収に関して、各市町村ごとにさまざまな取り組みが報告されました。たとえば田村市では15分別、二本松市では11分別を実施しており、もちろん紙パックもその1品目として含まれています。

●学乳パックに関しては、リサイクルを実施している学校に、福島県牛乳協会を通じてバケツやトレイを無償配付しているそうです。（2006年度で569校に配付）「牛乳パックは捨てるものではない」という意識は子どもたちにも浸透している、との報告がありました。

郡山市での意見交換

牛乳パックリサイクル講習会

全国6ヵ所で開催。講習会の中で回収ルールも体験。

紙パックリサイクルの現状や紙の原料となる森林の管理状況を説明するとともに、回収ルールの体験を通して、牛乳パックの回収に関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。2007年は下記の6ヵ所で実施いたしました。

【高知市】2月14日

自治体、古紙回収業者、スーパー、市民団体の41名が集まり、牛乳パックの回収状況などが話し合われました。学校牛乳は172校中2校のみでリサイクル、紙パックを分別しているのが35市町村中20と、県の担当の方々も状況把握ができたようです。

【日進市】8月3日

「日進市にぎわい交流館」に30名が集まりました。夏休みのため、子どもたちの参加が多く、にぎやかな中で紙パックリサイクルの実践と工作に、時間を忘れて取り組んでいました。

工作指導（日進市）

【さいたま市】8月5日

初めて容環協のメンバーだけで、紙パックリサイクルの啓発を行いました。参加者20名が持参の牛乳パックで回収ルールを体験。当日は、「彩の国生涯学習インストラクターの会」の会員や会長も参加されました。

【横浜市】8月9日

横浜中華街のローズホテルで開催された「2007年夏学校給食学習会」の一環として、栄養教諭を中心に600名以上の参加者が集う中、実施されました。全国パック連の平井代表による講演や紙パックリサイクル状況の説明の後、紙すきや工作を体験しました。

【桑名市】10月27日

資源回収ステーション施設「クルクル工房」で開催されました。参加者30名は、全国パック連の平井代表らによる紙パックリサイクルの歴史や現状の説明に、熱心に耳を傾けていました。また手すきはがきづくりの体験実習も好評でした。

【春日市】11月14日

春日市の後援を得て、35名が参加。北米・北欧の森林管理状況や牛乳パックリサイクルの最新データを報告しました。春日市からは紙パック回収促進に向け、さらに分別周知の徹底や回収箱の設置拡大を進めていくとの報告も。また、参加者は牛乳パックの簡単な開け方や手すきはがきづくりにも挑戦しました。

手すきはがきづくり体験（春日市）

牛乳パックリサイクル出前授業

小学校で出前授業。子どもたちと牛乳パックのリサイクルを考えました。

子どもたちに紙パックリサイクルに対する興味・関心を持ってもらい、学乳紙パックのリサイクルを促進するため、今年より全国パック連主催の「牛乳パックリサイクル出前授業」に協力しています。授業は牛乳パックおよび学乳パックのリサイクルに取り組んでいる小学校にスタッフらが出向き、リサイクルの現状を伝え、手すきはがきづくりなどを体験するもの。今年は下記5校で実施されました。

【深谷市立明戸小学校】2月21日

課外授業として、3・4年生21名に実施しました。最初に視聴覚室で牛乳パックリサイクルの経緯などを説明。その後、紙すきを体験しました。中には容環協のホームページを印刷して、予習してきた児童もおり、手すきはがきづくりにも非常に感激した様子でした。

【浜松市立浜名小学校】6月19日

全国パック連・容環協合わせて11名のスタッフが、4年生73名を対象に授業を行いました。牛乳パックリサイクルの歴史やリサイクルの現状を、時にはクイズを交えながら、楽しく学習。その後、児童たちと一緒に、世界で1枚だけのオリジナルはがきづくりに取り組みました。

【筑西市立伊讃小学校】9月4日

総合学習の授業として、4年生53名を対象に実施しました。イラストやクイズを使った楽しい授業に、子どもたちも集中力が途切れることなく、興味深そうに聞き入っていました。またはがきづくりでは、手際よく仕上げていきました。先生にも同じ体験をしていただくことで、より有意義な授業になったと思います。

【鴻巣市立赤見台第一小学校】10月12日

4年生全員66名が、合同で授業を受けました。元気なあいさつからはじまり、リサイクルの現状や森林管理の話などを集中して勉強。またメインの紙すき体験では、教室に歓声が溢れる楽しいひとときとなりました。児童から「リサイクルにもっと協力したい」という言葉も聞かれ、充実した出前授業となりました。

【高知市立鴨田小学校】11月30日

（財）省エネルギーセンター省エネ教育推進モデル校として、環境教育に力を入れている鴨田小学校。4年生165人による、大規模な出前授業となりました。子どもたちは熱心にメモを取りながらスタッフの話に耳を傾け、紙パックを使った「びっくり箱」づくりも、大いに盛り上がりました。

スタッフの自己紹介（浜松市立浜名小学校）

みんなが作った「世界に1枚しかない手すきはがき」（鴻巣市立赤見台第一小学校）

森林の市・エコライフフェア・エコプロダクツ2007

恒例のイベントに参加し、
紙パックリサイクルの意義を
PRしました。

【森林の市】　5月12日、13日

日比谷公園にれのき広場で開催された「平成19年度森林の市」に今年も出展しました。

今年はパネル展示等、恒例のイベントのほか、牛乳パックの手開き体験を実施。「ギネスに挑戦! 牛乳パック早開きコンテスト」も開催し、大いに盛り上がりました。これまで牛乳パックを開けたことがない人にも、リサイクルルールを理解していただけたと思います。

牛乳パック手開き新記録（最速）を記念して

【エコライフ・フェア】　6月2日、3日

エコロジカルなライフスタイルを広めていくことを目的として開催される「エコライフ・フェア」に出展しました。ブースを訪れるのは環境意識が高い方が多く、パネルの説明を熱心に聞かれる方、イベント用に資料の提供を求められる方など、多くのみなさんと紙パックリサイクルについて話し合うことができ、貴重なイベントになりました。

牛乳パック工作で遊ぶ親子（容環協ブース前）

小中学生が楽しく
勉強できるよう工夫した
展示ブースが大人気。

【エコプロダクツ2007】　12月13日～15日

東京ビッグサイトで開催された国内最大級の環境展「エコプロダクツ2007」に、連続4年目となる出展を行いました。年々増える小中学生の見学者に、親しみやすい雰囲気の中で勉強してもらえるよう、容環協のキャラクター「牛乳パックン」が解説する動画や初登場の「立体牛乳パックン」との記念写真コーナーなど、工夫を凝らした展示を行いました。

また「牛乳パックとリサイクル」「進んで使おう再生品」「全国各地の牛乳パック」など、パネルやサンプルの展示と全国パック連の協力による「手すきはがきづくり」の各コーナーを順に回って答える「パックンクイズ」も実施。常に人が集まる人気のブースとなりました。なお、「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の受賞作品展示や表彰式も行われました。

クイズラリーでにぎわうブース

いつも人気の手すきはがきづくり

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール

山本陽菜（はるな）さんの「ぎゅうにゅうパックのイルカ」が最優秀賞に。

今年で7回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」。全国の小学校を対象に、応募件数は昨年の3倍近い8,081点といっそうの盛り上がりを見せました。

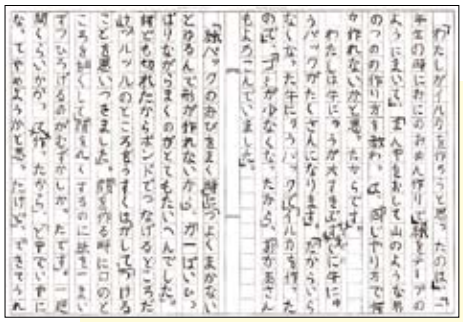
このような中、見事、最優秀賞に選ばれたのは、山本陽菜さん（大阪府小学2年生）の「ぎゅうにゅうパックのイルカ」。四角く固い牛乳パックから、美しい曲線を作り上げた技術と根気よく作った努力が評価されました。また全国牛乳容器環境協議会賞は、京都府の松田郁子さんの作品「リサイクルダストボックス」が受賞しました。牛乳パックの丈夫さを活かし、家庭内での分別用のボックスとして使いやすい構造の作品です。

容環協賞受賞の松田郁子さん

なお、上位8点の受賞作品は「エコプロダクツ2007」にて展示。最終日には受賞者が招待され、盛大な表彰式が開催されました。コンクールの実行委員長を務める容環協会長の山登正夫氏は「いずれも思いのこもった作品だった。これからも多くの人に牛乳パックのリサイクルに関心を持ってほしい」とコメント。また受賞者代表として挨拶した山本陽菜さんは、「途中でやめようと思ったこともありましたが、でき上がったときはうれしかった」と、工作の過程や気持ちを堂々と発表し、大きな拍手を浴びました。

受賞作品は容環協の子ども向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。

最優秀作品「ぎゅうにゅうパックのイルカ」山本陽菜さん（大阪府／小学2年生）


受賞感想文

【原文】 わたしがイルカを作ろうと思ったのは、一年生の時におにのおめん作りで紙をテープのようにまいて、まん中をおして山のような形のつのの作り方を教わって、同じやり方で何か作れないかと思ったからです。

わたしは牛にゅうが大すきで、すぐに牛にゅうパックがたくさんになります。だからいらなくなった牛にゅうパックでイルカを作ったので、ゴミが少なくなったから、おかあさんもよろこんでいました。

紙パックのおびをまく時につよくまかないとゆるんで形が作れないから、力いっぱいひっぱりながらまくのがとてもたいへんでした。何ども切れたからボンドでつなげるところだけ、ツルツルのところをうすくはがしてつけることを思いつきました。顔を作る時に口のところを細くして、顔を丸くするのに紙を一まいずつひろげるのがむずかしかったです。一週間くらいかかって作ったから、と中でいやになってやめようかと思ったけど、できてうれしかったです。

わたしはいろんなものを作るのがすきです。だからすきなことでしょうがもらえて、うれしかったです。本当にありがとうございました。

エコプロダクツ2007での表彰式

容環協の取り組み

環（わ）の縁結びフォーラム2007

ー牛乳パック再利用全国情報交流会ー

全国パック連と連携し、活動を強化しています。

【開会／活動報告／基調講演】

全国パック連は、今年から新しく牛乳パックリサイクルにテーマをしぼり込んだ全国の情報交流会を「環（わ）の縁結びフォーラム」と題して開催することになり、容環協は全面的にバックアップしました。全国パック連の平井代表は「私たちの役割が、牛乳パックのリサイクルを進めることだけでなくて、さまざまな形でリサイクルに関わる人たちをつなげることにあると考えている。」と、このフォーラムのタイトルに込めた思いを述べられ、「このフォーラムが皆様のご縁つなぎの場になれば幸いです。」と挨拶されました。

このフォーラムでは、環境省リサイクル推進室からご挨拶があり、容環協の青木常務から飲料用紙パックリサイクル行動計画「プラン2010」の説明を行った後、法政大学松浪教授から「容器包装リサイクル法の今後ー循環型社会と経済・社会・環境の効率性」と題した基調講演が行われました。

全国パック連 平井代表

全国各地の事例報告「テーマは連携」

【全国の事例報告】

第2部は全国各地の牛乳パックリサイクルに関わる事例報告が行われました。地域会議やリサイクル講習会で訪問した地域からもその後の状況などの報告がありました。

愛媛県畜産課からは、「ごくごく飲んで くるくるリサイクル」をキャッチフレーズにした学校給食用牛乳パックリサイクルの取り組みについて。集めて使うリサイクル協会からは、牛乳パックリサイクルに関わる作業所の取り組みが事業としても成り立っている事例について。桑名市の北勢商事からは、ユニークなステーション回収の事例。筑西市からは、旧明野町を中心に市全体に取り組みを広げている状況。最後に、長野県セルプセンターから牛乳パック回収と再生トイレットペーパー販売のしくみについて報告され、全国の情報にまた新たな縁がつながったようです。

フォーラムの休憩時間、終了後の懇親会の時間を使って新しい牛乳パック回収ボックスの人気投票も行いました。

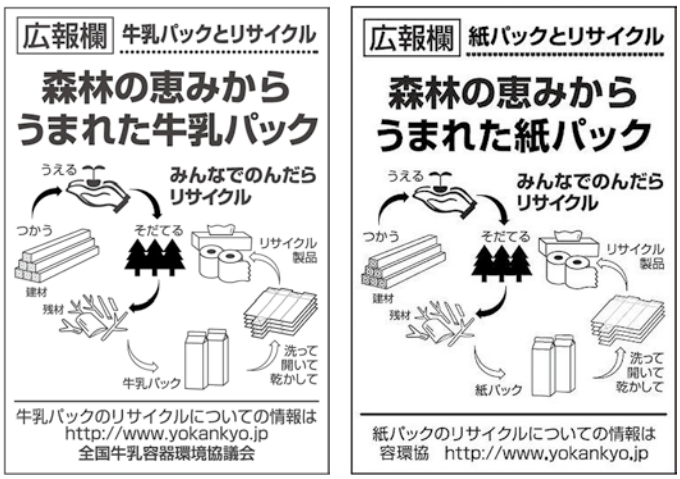
事例報告する愛媛県畜産課 近藤さん

今年は環境メッセージの掲載をさらに拡大しました。

【環境メッセージ掲載キャンペーン】

紙パックが環境にどのように関わっているかを伝え、使ったあとの紙パックリサイクルがさらに環境負荷を軽減させていること、またリサイクルにご協力いただいていることへの感謝の気持ちを消費者の皆様に表すために、毎年6月の環境月間と10月の3R推進月間を「環境キャンペーン強調月間」として、牛乳パックに環境メッセージを掲載しています。キーワードは、「森林の恵みからうまれた牛乳パック」「みんなでのんだらリサイクル」「リサイクルありがとう」です。

今年は牛乳、乳飲料の1,000ml、500ml以外に、清涼飲料、果汁飲料などの紙パック商品にも拡大。紙パック全体の取り組みとしてより多くのメッセージを掲載した結果、6月は全国23社約2,000万個のパッケージに、10月は全国24社約2,400万個に掲載いただけました。また通年掲載の商品も増えてきています。なお、キャンペーン掲載会社名、商品を容環協のホームページで紹介しています。



牛乳、清涼飲料、果汁飲料など紙パックの原料は同じ、
中が白い紙パックはリサイクルも同じようにできます。

親子で楽しく参加できる食育イベントに出展。

【第4回親子で楽しく食育体験!!】

2007年8月25、26日、東京・江東区の深川政府倉庫で開催された「第4回親子で楽しく食育体験!!」(東京食育推進ネットワーク・農水省関東農政局主催)に、昨年に引き続き、参加。日本乳業協会と共同ブースでパネル展示、空パック手開き体験、資料配付等を実施しました。

夏休み最後の土日でしたが、多数の親子連れで賑わいました。中には夏休みの宿題に紙類のリサイクルを取り上げた児童もいました。再生紙メーカー3社を取材したそうで、紙は植林で再生産されている木材の端材を使って有効利用されていることなどの説明を含め、30分以上も熱心に質問してくれました。また手開き体験では、ハサミがなくてもパックの貼合せに沿って開けば、意外と簡単に手開きできることを体験してもらいました。子どもたちの関心の高さが感じられたイベントでした。

紙パックの手開き体験に子どもたちも興味津々

容環協の取り組み

ホームページをさらに見やすく リニューアルしました。

【ホームページ】

容環協のホームページでは、最新情報を随時更新しており、「牛乳パックリサイクル促進地域会議」や「牛乳パックリサイクル講習会」の報告、各年度の年次報告書、中期行動計画「プラン2010」などが読めるようになっています。また紙パックのリサイクルの流れや回収率についてもわかりやすく図表でまとめ、リサイクル事例や会員企業の活動などもご紹介しています。

リニューアルしたホームページのトップページ

小学校中・高学年向けのサイト「牛乳パックン探検隊」も好評です。子どもたちに牛乳パックリサイクルと環境について、わかりやすく解説しています。

このように容環協の活動をお伝えしているホームページですが、この度、今まで以上に見やすく使いやすくするため、リニューアルしました。まずタイトルページに登場するのが、容環協のキャラクターである「牛乳パックン」。動きのある画面を採用し、登場した牛乳パックンが“ENTER”をクリック、トップページへ進めてくれます。またトップページでは、左側に見ていただきたい情報、お知らせおよび紙パックのリサイクルの流れ、回収率、中期行動計画、リサイクル事例を配置しています。右側にはテーマごとに分けて、より詳細な情報が見られるように配置。テーマごとに牛乳パックンのイラストも変え、見た目の楽しさも加味しました。ぜひ一度ご覧ください。

またもう一つ、「牛乳パックン探検隊」という小学校中・高学年向けのサイトを開設しています。ここでは、“牛乳パックンの秘密を探しに北の森へ”、“世界中で愛されてるよ、牛乳パック”、“地球とみんなのためにリサイクル”と題して、森林のことからリサイクルのことまで牛乳パックと環境について、牛乳パックンがわかりやすく説明してくれています。写真も豊富なこちらもぜひご覧ください。

ホームページアドレス http://www.yokankyo.jp
牛乳パックン探検隊　http://www.packun.jp

牛乳パック回収ボックスの拠点が目標の10,000ヵ所を突破。

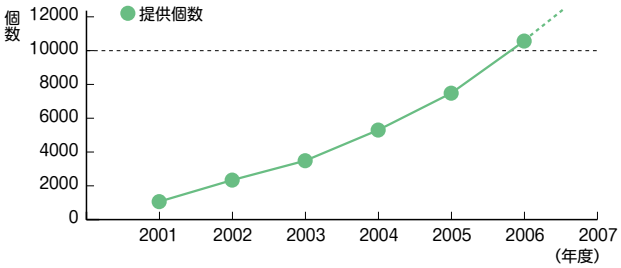
【回収拠点拡大活動】

牛乳パックリサイクルは、市民一人ひとりのネットワークが作り上げてきたもの。新しい回収協力者を作るためには、新しい回収拠点を生活エリアに数多く設置することが不可欠です。そこで全国パック連と容環協は、牛乳パックの再生紙を使用した軽便な牛乳パック回収ボックスを製作し、全国各地に提供して拠点づくりを進めています。本年、おかげさまで、目標としていた10,000ヵ所を突破することができました。ご協力ありがとうございました。

これからも新たな回収拠点づくりを目指すべく、今回、取り出し口を大きくして使いやすく、牛乳パックンのデザインをあしらって、より親しみのある牛乳パック回収ボックスを新たに製作しました。今後は提供数20,000ヵ所を目標に、拠点拡大に努めます。

また紙パックのリサイクルの工程を示し、再生品で作られたトイレットペーパー、ティッシュペーパー、紙ひもなどの啓発ツールをセットした「メッセージBOXキット」を市町村のリサイクルセンターなどに提供し、設置させていただいていますので、ぜひご覧ください。

牛乳パック回収ボックス提供個数



10,000ヵ所の牛乳パック回収ボックスが47都道府県にどのくらい設置されたか、各地の設置事例などを冊子にしました。詳しくはホームページでご覧いただけます。

新しい牛乳パック回収ボックス